



DX NEXT TOHOKU

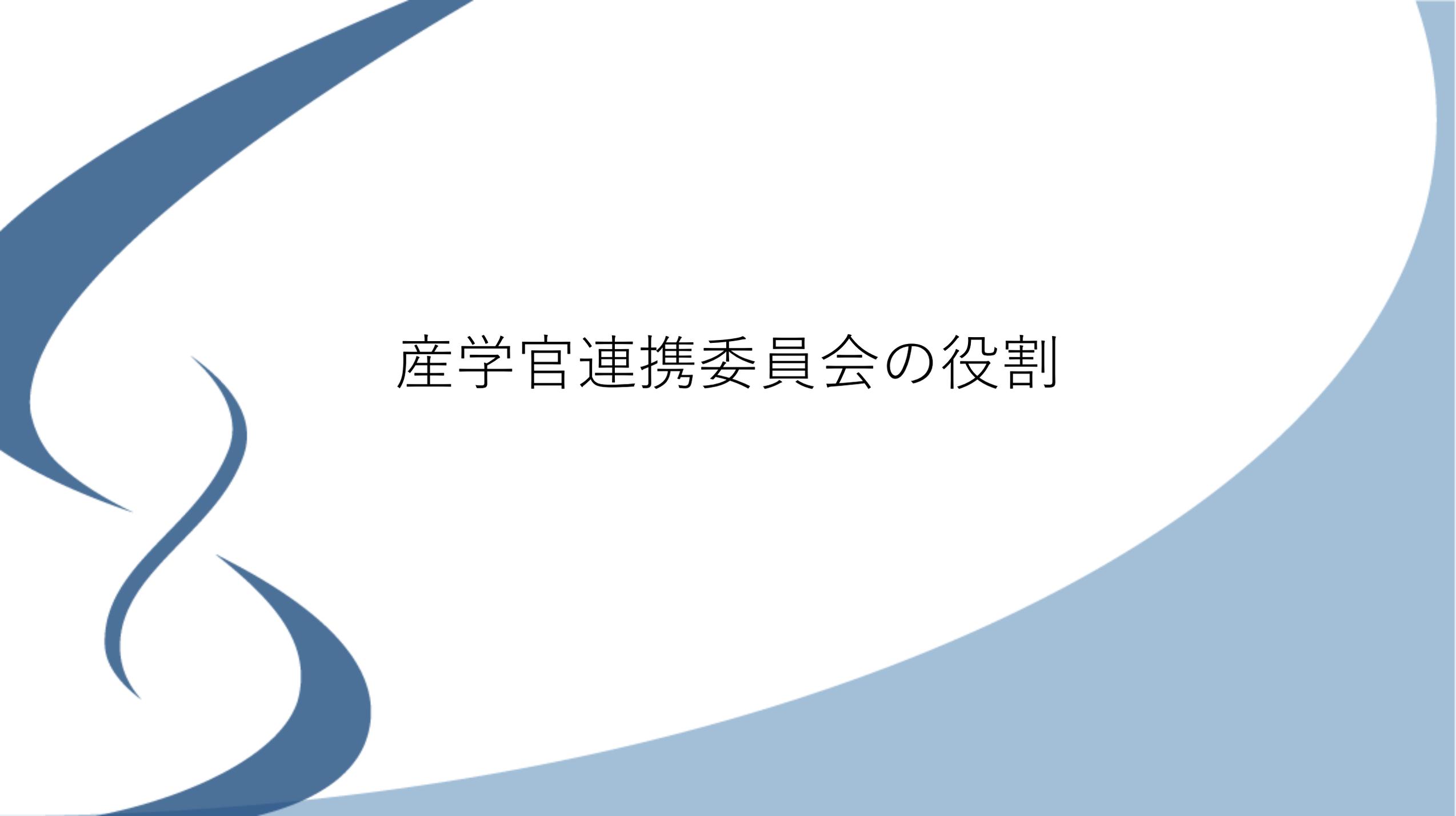
一般社団法人

産学官連携委員会の取り組みについて

一般社団法人DX NEXT TOHOKU
産学官連携委員会



産学官連携委員会の役割



DXにより、**地方の地域課題**を解決する

地域課題 = 自治体課題、地域の民間企業の課題

少子高齢化が起因の課題が大方を占める

**東北に残りたい、働きたいという学生が
クリエイティビティの高い仕事を
選択出来る環境を作る**

DX = クリエイティビティが高い仕事

地域課題や地域の民間企業・ 学校の課題を共有し、解決する

- ・ DXに取り組む際に発生する課題
- ・ すでに発生している課題



課題の例



○官：地域の課題

- ・人口減少/少子高齢化
 - まちの様々な機能の維持が困難に
 - 例：病院/診療所の集約による利便性低下、買い物難民の増加、空き家増加による治安悪化、etc...
- ・若者の流出（首都圏一極集中）
 - 産業の担い手不足、まちの活力の低下
- ・復興需要の収束
 - 地域の「稼ぐ力」の低下

○官：行政の課題

- 行政職員のDXへの理解不足
- 自治体ごとの業務システム導入による冗長化
- 頻繁な人事異動
 - 業務ノウハウや人的ネットワークの希薄化
- 広範な業務分野による担当の縦割り化
 - (他自治体含む) 横の連携不足

○学：学校の課題

- ・ Society5.0やSDGsの教育が必要
- ・ DX後の社会へ向けたデータを活用できる学生を育てる教育が必要
- ・ 地域と学校/学生の繋がり（地域共同事業）
- ・ 地域企業と連携した学生への実践的な教育
- ・ 面白い東北の企業を知る場を創る
- ・ 地元で働きたい学生の選択肢を増やす

○産：ユーザ企業の課題

- ・ DXへの理解
- ・ 情報システムの老朽化、複雑化、ブラックボックス化によりデータを十分に活用しきれない。(レガシー化)
- ・ レガシー化による運用コスト増。
- ・ ベンダー任せで自社内に情報システムに関するノウハウが蓄積しにくい。
- ・ システムを刷新する予算がない。
- ・ IoTに期待があるが予算がない。



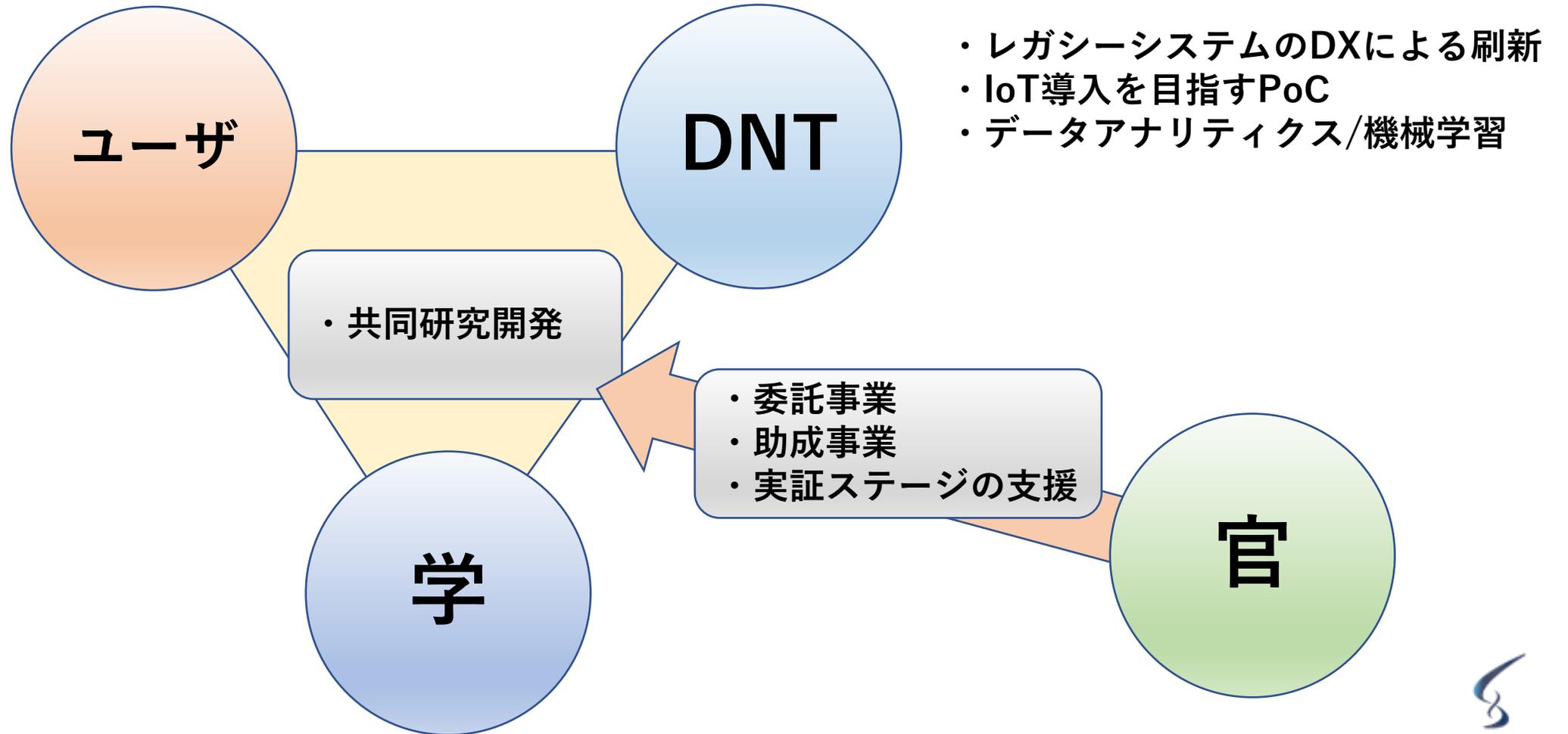
○産：ベンダー企業の課題

- ・ DXへの理解
- ・ 自社製品/サービスが老朽化・複雑化・ブラックボックス化している。（レガシー化）
- ・ DXに取り組むことで自社製品/サービスがディスラプションする。
- ・ 最新技術についていけるか？自己研鑽できるか？
- ・ 自社製品/サービスを刷新する予算がない。

ベンダーもDXする！！

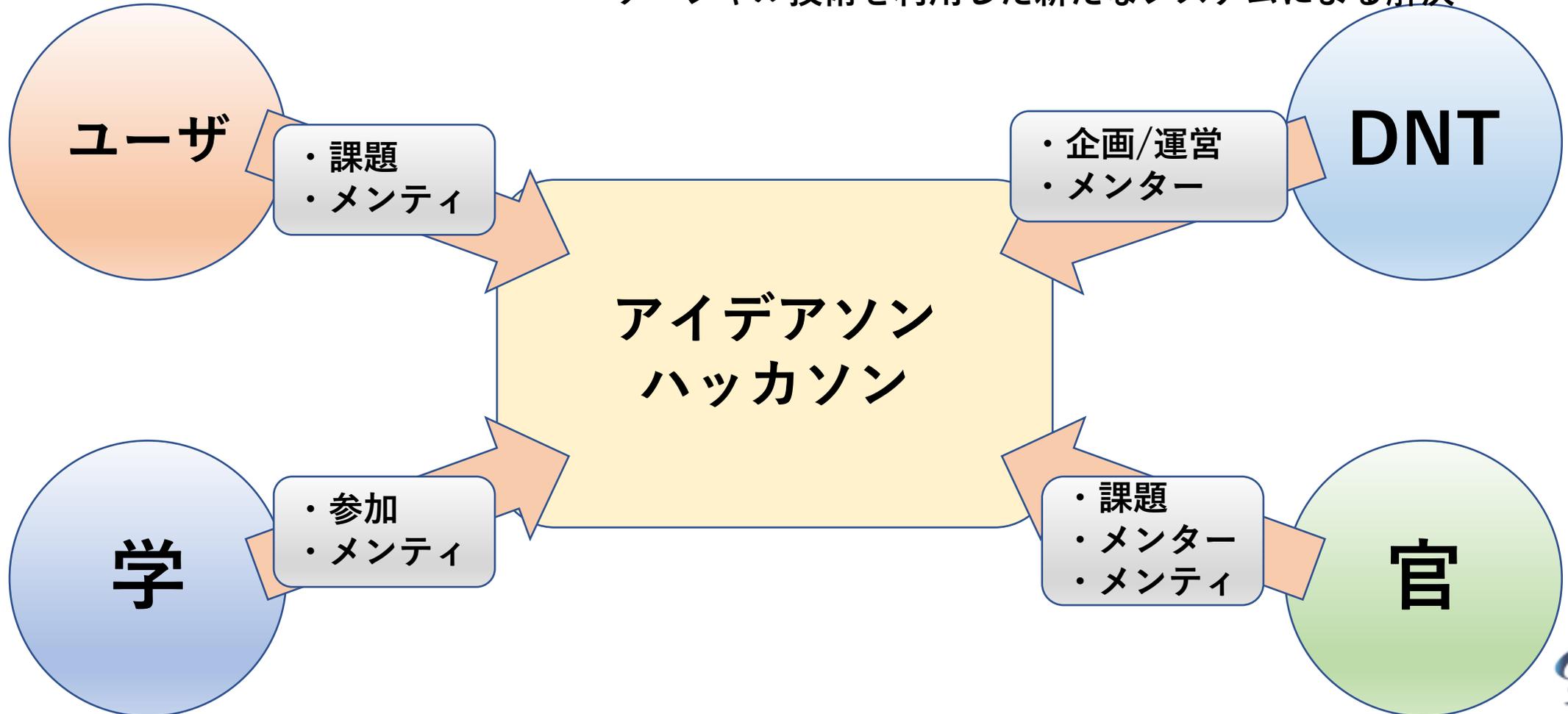
連携の例

○従来型



○ハッカソン型

クラウド、モビリティ、ビッグデータ／アナリティクス、ソーシャル技術を利用した新たなシステムによる解決



自治体の垣根を超えた課題解決の為にコミュニティをつくります

方針①

リスクフリーの課題共有

- 自治体の垣根を超えて地域、自治体の課題を安心して話せる場
- 守秘義務を必ず守る
- トラスト&リスペクト

方針②

単なる座談会で終わらせない

- 課題を共有して終わりではなく、解決に繋げていく
- ここで出た課題からさらに抽出し、産学官で解決する

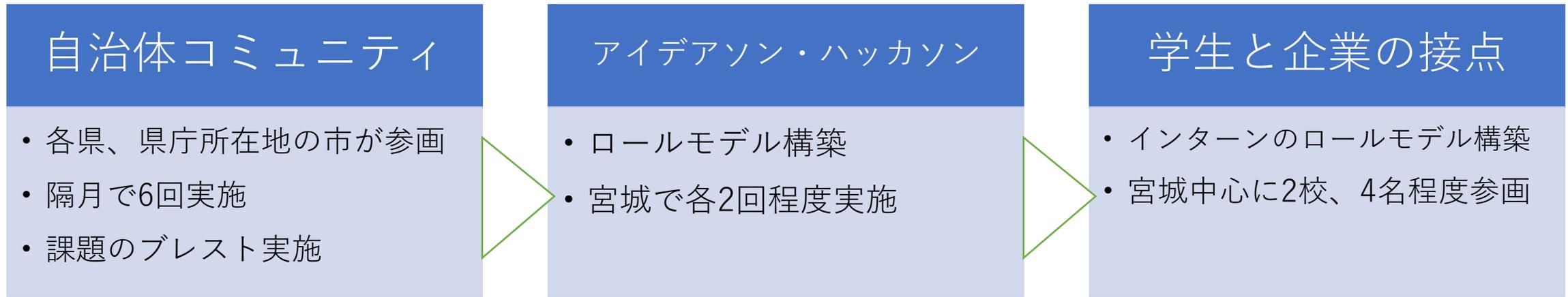
方針③

やらされ感なし。主体的運営を。

- コミュニティの運営にはじめから自治体職員が関与
- 自治体職員が参加しやすいコミュニティとして設計する

- 課題を学校と共有し意見をいただく。
課題が学校の研究テーマにできるようであれば協業する。
- アイデアソン/ハッカソンを主催し、学校に告知して学生の参加を募る。
- DNTに参加するユーザ企業、ベンダー企業より学校を紹介していただいて協力校を増やす。
- 課題解決のため学生をインターンシップで受け入れる。

2021年度



2022年度

